

令和7年度 学力向上のための重点プラン【小学校】新宿区立落合第一小学校

■ 学校の共通目標 【HP公開用・様式1・7年5月13日】

授業作り	重 点	自分の考えを豊かに表現できる力を身に付けさせる。
環境作り		学校共通でユニバーサルデザインに即した環境整備を図る。

■ 学年の取組について

学 年	学習状況の分析 (各種調査から)	学校が取り組む目標 (日常の授業の様子から)	目標達成のための取組
1 学 年		・ひらがな、カタカナ、漢字を正確に書いたり読んだりできるようにする。 ・物語文や説明文の内容の大体をとらえることができるようにする。 ・自分の意見を相手に伝えることができるようにする。 ・たし算やひき算の計算が正確にできる。 ・量感を感じ取ることができる力を高める。	①筆順や字形の指導の継続 ②意図的な文を書く機会の導入 ③話し合い活動や友達との会話の充実 ④積極的な読書活動の取組 ⑤数の構成の反復学習 ⑥学習問題と日常の場面を意図的につなげる機会の確保 ⑦ICT 機器の使い方を理解する。
2 学 年		・文章を読んで内容の大体をとらえ、分かったことや考えたことを友達と伝え合えるようにする。 ・自分の経験や感想を簡単な文章で表現することができるようにする。 ・新出漢字を繰り返し読んだり書いたりすることで定着を図る。 ・たし算、ひき算、かけ算の意味を理解しながら確実に計算することができるようにする。	①音読カードを活用しての練習 ②継続的な日記、作文指導 ③漢字小テストの実施と反復練習 ④筆順や字形の指導の継続 ⑤学習状況の把握と必要に応じた個別指導 ⑥ICT 機器を活用した練習問題の取組 ⑦積極的な読書活動の取組 ⑧読書活動の推進
3 学 年	・国語では、文章の構成を意識しながら書く力を伸ばしていく必要がある。また、物語文における情景から登場人物の気持ちを想像する力を付ける必要がある。 ・算数では、かけ算九九を中心に、既習内容の定着を図る必要がある。また、データを活用することに課題がある。	・教材の音読を通して、日本文型を学ぶ機会を設定していく。 ・自分の考えを整理し、順序立てながら文章に書き表す活動を取り入れる。 ・読書活動の推進を図るとともに、視覚的な支援をしながら情景や気持ちを想像させる。 ・既習内容を定着させるために、ドリル教材等を活用し、繰り返し復習する機会を設ける。 ・既習事項を活用する機会を意図的に設定していく。	①音読カードを活用しての練習 ②「はじめ」「中」「おわり」の文型提示 ③読書活動の推進 ④ドリル教材等を用いた反復練習 ⑤活用問題に取り組む時間の設定 ⑥ICT 機器を活用した練習問題の取組

4 学 年	・自分の考えを文章で書き表せるようになるために、文章を書くことを習慣付ける手だてが必要である。 ・算数では、単元の前提となる基本事項にさかのぼった、個別指導が必要である。 ・人の意見を聞いたり、認め合ったり、自分の考えを深めたりする経験が少ない。話し合い活動にすすんで取り組む必要がある。	・自分の考えを整理して、順序立てながら文章に書き表す力を高める。 ・既習事項をどのように活用できそうかを共有した上で、課題に取り組むことができるようにする。 ・練習問題を行うことで、既習事項を活用する時間を確保し、習熟を図る。 ・普段の学習から話し合うことの意味や話し合うことで得られることを伝え、話し合い活動の充実を図る。	①自分の考えや意見を文章化する学習活動の設定 ②文型の提示 ③課題解決に向けて見通しをもたせる ④学習状況の把握と個に応じた指導 ⑤練習時間の確保 ⑥ICT 機器を活用した練習問題の取組
5 学 年	・書くことを苦手とする児童には、自分の考えを文章で書き表す活動を日頃から行っていく必要がある。 ・文章の読み取りができるように、多くの語彙を獲得することが必要である。 ・算数科の学習では、ノートに自分の考えをまとめたり、自分の考えを全体場で表現したりすることに課題が見られる。	・自分の考えを表現する機会を多く設定する。 ・登場人物の気持ちや筆者の主張を読み取れるよう、文章表現に注目させたり、多くの文章に触れたりして、語彙の獲得や人物像の読み取り方等の定着を図る。 ・児童の実態に応じた学習形態で考えを共有し、協働的に課題解決できる学習活動を設け、自信をもって学習を進めることができるようにしていく。	①自分の考えや意見を文章化する学習活動の設定 ②文型の提示 ③読書時間の確保 ④新出表現や言葉に着目させた文章の読み取り ⑤ICT 機器を活用した意見交流
6 学 年	・国語科物語文における心情の読み取り、漢字の書き、言語文化の問題に課題がある。言語事項における既習内容の徹底指導を行っていく必要がある。 ・算数科の習熟度別少人数指導を通して基本的事項から、個に応じた指導が必要である。	・自分の考えを表現することに対して、肯定的な回答の割合が低いことから、文章の推敲や日常的に文章を書くことに親しむような工夫を図る。 ・個に応じた練習問題を行うことで既習事項を活用する時間を確保し、習熟を図る。	①基本事項の定着度に応じた個別の課題への取組 ②新出表現や言葉に着目させた文章の読み取り ③ICT 機器（主にデジタルドリル）の活用